

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	870101748		
法人名	有限会社 共同生活舎		
事業所名	グループホーム 堀安の舎		
所在地	水戸市堀町1319 (電話) 029-255-6541		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年5月26日	評価確定日	平成20年10月10日

## 【情報提供票より】(平成20年5月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	8人, 非常勤 3人, 常勤換算 8.3人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	～ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年5月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0	要介護2	1		
要介護3	3	要介護4	2		
要介護5	3	要支援2	0		
年齢	平均 87 歳	最低	80 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	城南病院、石田外科医院、横須賀歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホールを地域に開放して行われる催事には利用者も気の向くまま自由に参加して楽しみ、地域密着型のホームとして定着している。  
管理者は、地域の“住みよい町づくりの会”の会長をしており、地域の方々と日頃から交流するなど、地域でのホームの認知度は高い。  
利用者の介護度が上がってくるなか、自分が受けた介護を目指し、利用者に安心・安全・安らぎの場を提供し、一人の人間として生涯を全うできる場をつくりたいという管理者の思いがある。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価で課題とされた権利や義務の明示、ケアプラン作成時の家族の参加について、職員間で話し合い改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全職員で行い、外部評価の課題について話し合いサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の委員に他のグループホームの管理者も参加しており、意見をもらうなどサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営規定に苦情相談窓口の掲示をするとともに、玄関に苦情受付ポストを設置している。 年に3回家族懇談会を開催するなど、話し合いの機会を設けているが、記録に残していないので記録を残すことを提案する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者は、市民運動会やふれあい祭りなど地域の行事に参加している。 元旦祭や節分祭など神社の行事に毎回参加し、主催者から安全な場所の確保など、特別に配慮してもらっている。 敷地内の多目的ホール“楽庵”を地域の人たちの音楽会、フラダンス、個展、バザーなどの催しに開放し、開催時には利用者も自由に参加して楽しんでいる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は事業所開設時、“利用者が一人の人間として尊重される居場所をつくりたい”との思いから、地域の中で安心して住みたいと思えるホームを実現するための理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者には、あくまでも施設ではなく家庭にいるように感じてもらえるよう、ミーティングのときに話し合い、日常のケアの中で理念の実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は、市民運動会やふれあい祭りなど地域の行事に参加している。 元旦祭や節分祭など神社の行事に毎回参加し、主催者から安全な場所の確保など、特別に配慮してもらっている。 敷地内の多目的ホール“楽庵”を地域の人々の音楽会、フラダンス、個展、バザーなどの催しに開放し、開催時には利用者も自由に参加して楽しんでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で課題とされた権利や義務の明示、ケアプラン作成時の家族の参加について、職員間で話し合い改善している。 自己評価は全職員で行い、外部評価の課題について話し合いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に他のグループホームの管理者も参加しており、意見をもらうなどサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と頻繁に情報交換をしたり相談する機会を設けている。 市の介護保険相談員の訪問を受けている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを発行し利用者の暮らしぶりなどを家族等に伝えている。 利用者の誕生会への参加など、家族の訪問が頻繁で報告する機会が多い。 年2回開催する“ふれあい会”では、利用者とともに家族もコンサートや食事を楽しんでいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営規定に苦情相談窓口の提示をするとともに、玄関に苦情受付ポストを設置している。 年に3回家族懇談会を開催するなど、話し合いの機会を設けているが、記録に残していない。	○	家族懇談会の記録を残すことを提案する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は馴染みの関係の大切さを認識しており、職員の離職を最小限に抑えるため仕事に夢を持ち、喜びを感じられる職場環境や処遇改善に努力している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、大事なものは資格ではなく日常的に学ぶことであるとの考えから、職員が交代で研修を受講できるような体制を整えている。研修内容を全職員が共有できる体制づくりまでには至っていない。	○	研修を受講した職員が研修内容を報告する場面をつくるとともに、報告書を職員間で回覧するなど共有できる体制づくりを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の見学や交流する機会を設け、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者は、ホームから施設感をなくすよう建物の造りに工夫をこらし、旅館に泊まるような感覚で安心して生活が始められるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員採用にあたっては、“明るく高齢者が好き、在宅で看取った経験がある”などを条件としている。 優しさや高齢者をよく理解することが浸透しており、利用者と職員は喜怒哀楽をともにしながら自然に生活している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを表すことの困難な利用者の意向の把握や対応などを振り返り、ターミナルケアの後などは、全職員で話しあっている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者や家族、職員が一体となって具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアカンファレンスを月1回行い、状態が変化した場合はその都度現状に即し、臨機応変に介護計画を見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活用し毎週定期的な訪問看護、月2回内科の医師・2ヶ月に1回精神科の医師の往診で健康管理をしている。 通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、利用前からのかかりつけ医の診療が受けられるよう、複数の医療機関と連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合や終末期に対する対応指針を契約時に利用者や家族に説明し、チーム一丸となって支援できる体制となっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応の仕方など、ミーティングの時に話し合うとともに、日々の関わり方に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や睡眠、食事時間など一人ひとりの体調に配慮するとともに、利用者の気持ちを尊重して支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介護度が上がるとともに、食事の準備などへの関わりは少なくなっているが、献立に季節のメニューを取り入れるなど、利用者の好みを反映できるよう工夫し、食事が楽しみとなるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員のローテーションを工夫し、利用者のこれまでの生活習慣にそった時間帯に入浴できるよう配慮している。 入浴を拒む利用者は、声かけの工夫をして入浴ができるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	コーラス・写経・茶の湯・生け花などこれまでの生活歴を活かせるよう支援している。 地域の人々に解放している“楽庵”（多目的ホール）で行われる音楽会、フラダンス、個展、バザーなどの催しに出かけることが楽しみごとの一つになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	介護度が上がるとともに、日常的に買い物などに出る機会は少なくなっているが、敷地内を散歩するなど季節を感じられるよう支援している。 利用者の部屋から外に出られるよう開口部を広くしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけず、自由な暮らしができるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	スプリンクラー、非常通報装置、消火器などの設備点検を定期的に行っている。 地域の方々が自由に出入りしているため利用者への理解も良く、地域の方々の協力が得られる体制を構築している。 職員2人が防火管理者の資格を取得している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	モデルメニューで管理栄養士の指導を受け、一人ひとりの食事や水分摂取量を記録するとともに、栄養摂取に配慮しているが栄養バランスを配慮するまでには至っていない。	○	栄養バランスと見た目（材料と色の取り合わせなど）に一工夫が望まれる。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は木造づくりで、壁・床ともに木目が暖かい空間をつくりだしている。 食堂は吹き抜けで天井が高く、窓からの採光で居心地よく過ごせるよう配慮している。 利用者が自分の家で暮らしている様に感じられるようフロアの飾り付けや家具の配置に工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた家具や仏壇を置き、写真や自分の作品を飾るなど、一人ひとりの生活スタイルに合わせて居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。